

肢体不自由児の障害特性を踏まえたICTを活用した指導方法や教材・教具の工夫 No.3

「自発的なICT機器の活用のための環境整備と指導方法の工夫」
～「自分から使おうと思いつき、使い始める」ために～

事例生徒の実態	特別支援学校中学部 3年生 ・教科書や筆記用具の扱い、タブレット型端末の操作には大きな困難はない。 ・活動範囲が広がるのに伴い電動アシスト式の車いすの使用を始めた。
教科(単元名)領域	自立活動
指導目標	必要に迫られたときに、自らの判断でICT機器を準備し活用する。
使用した機器等	・タブレット型端末 (Android) ・車いす用テーブル (RightNow カバンタイプ)
本指導で育てたい具体的な力	・マップ検索やメール連絡等の操作等のICT機器の活用する力。 ・ICT機器の実際場面での活用の要不要を自ら判断する力。 ・ICT機器やその他の手段を上手く使って外出活動を成功させることで育成される外出や自立的な行動への自信。

指導のポイント

自発的にタブレット型端末を用意して使い始める行動が成立しにくい生徒に対して、車いす用の特殊なテーブルを活用して、ものを取り出しにくいという活動制限を軽減することで、外出中のタブレット型端末の自発的な活用を支えた。

ICTを活用した実践

○授業内容

生徒一人一人が個別に希望する外出活動の計画を立て、ヘルパー役で帯同する教師に援助を求めながら主体的に行動する校外学習（商店街に出かけ雑貨店でおしゃれ用品を購入し、カフェで食事をとる、など）を数回計画し指導を行った。

○活動の流れ

①外出活動の前に、自分の持ち物の携帯方法を考えた。「持ち物の分け方」に沿って収納場所を決めた。

大きさ

重さ

使用頻度

貴重品か

●

●

●

持ち物の分け方

ウエストポーチ

座面の隙間

ナップサック



フレーム下のネット

どこに収納するか？

ICT を活用した実践（続き：活動の流れ）

②実際の外出活動で、ICT 機器等の自立的な使用に取り組んだ

タブレット型端末は車いす用特殊テーブルにセット

すぐに使えるので操作する機会が増加

タブレット型端末で対応できない場合に周囲の人に助けを求められるようになる

よくわからないときに助言を求める行動が多く、早くなる

ICT 機器の活用や他の手段を活用しての外出活動の成功



図1 車いす用テーブル「RightNow」。旭洋鉄工株式会社HPより(R4年4月)

③事後の振り返りの中で、より行動しやすくなるための工夫を考えた

スケジュールは印刷したものよりもタブレット型端末に写真として入れておく方が便利かも

自分で方法を改善して
いこうとする姿が見られた

図2 「RightNow」にタブレット型端末をセットして行動する様子



生徒の変容

- 実際の外出行動での ICT 機器の活用について「自分で使い始められる状況」をあらかじめ作っておくことによって、他者から促されなくても、自発的に考えて行動する活用に変えていくことができた
- この変化が、活用の機会や自分から助言を求める行動を増やし、ICT 機器の活用スキルを高めていく結果につながった

「道に迷わない自信はないけど、迷った時にどうすれば良いかには自信があります」
(外出活動の振り返りで語ってくれた言葉)

本事例から学ぶ ICT 活用のポイント

教師との外出活動から範囲を広げて、家族やヘルパー、友達など、様々な人々との外出のなかで自発的に ICT 機器を活用する経験を積むことで、社会性や ICT 機器の活用スキルを高めしていくことができる。

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 肢体不自由教育研究班

本事例は、令和3年度「肢体不自由教育研究班」基礎的研究活動に基づいて作成されたものです。

事例提供者：谷口 公彦（香川県立香川西部養護学校）

※事例は前任校（香川県立高松養護学校）での実践に基づくものです。